

令和5年度 学校評価報告書

令和6年3月21日

北海道教育委員会教育長 様

北海道厚岸翔洋高等学校長 山 本 十 三

次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- 北海道厚岸翔洋高等学校の生徒として自覚と誇りを持ち、未来に翔く人の育成を目指し、
- 学びの目的を理解し、学びの喜びを実感できる人を育む
 - 課題を発見し、自ら進んで解決に取り組む人を育む
 - 自他の違いを尊重し、多様な他者と協働することができる人を育む
 - 心身ともに健康で、持続可能な地域社会の創り手となる人を育む

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育課程	育成を目指す8つの資質・能力について、マイスター・ハイスクール事業の中でも定性的目標として掲げて取り組むなど、教育活動全体を通して、地域社会の創り手となる人材の育成に努めた。	生徒に育成を目指す資質・能力は、生徒の実態を踏まえ、地域のニーズに合致している。引き続き、地域と連携し町の将来を担う人材を育成する教育活動を期待している。
改善方策	マイスター・ハイスクール事業終了後も成果を生かすことができるよう、教育課程の再編成を検討する。	
学習指導	主体的・対話的で深い学びを実現するため、生徒理解に努めて一人一人に適した個別指導に重点を置くとともに、企業等の外部講師による指導を積極的に取り入れるなどの工夫改善が行われている。	定員確保に苦慮する中、先生方が熱心に指導していて、その成果が豊かな海づくり大会における翔洋高校生の立派な姿として発揮されていた。今後も生徒理解に努め、効果的な指導を継続してほしい。
改善方策	タブレット端末などICTの活用を充実し、各教科の学びの深化を図る。	
生徒指導	いじめ防止基本方針を改定し、いじめ防止対策委員会を中心として、いじめの認知やいじめの解消に向けて取り組んだ。 校則については、身だしなみ検討委員会において丁寧な議論を行った。	自己評価が高いことは、各自が取組を過大評価しているわけではなく、先生方の熱意が表れていると評価できる。 様々な問題の未然防止・早期対応に向け、教育相談の充実を図ってほしい。
改善方策	基本的な生活習慣の確立に努めるとともに、いじめ等の未然防止に資する教育相談体制の充実を図る。	
進路指導	外部講師による進路ガイダンスを充実し、3年間を見通した進路指導によって生徒一人一人の進路実現が図られた。	ここ数年継続して公立大学に進学する生徒がいて少人数ながら生徒及び先生方の努力が感じられる。
改善方策	地域と連携した企業説明会等を実施するなどして進路指導の充実を図る。	
PTA活動	学校祭や体育大会におけるPTA活動を再開し、保護者等の積極的な参加によって充実した活動を実施することができた。	学校と家庭が一体となって生徒を育成していくため、気軽に参加しやすいPTA活動を目指してほしい。
改善方策	広報活動の充実し、参加しやすいPTA活動に向けて情報発信に努める。	
公表方法	学校ホームページで公表する。	